1Na-2

家族のかかわりの一考察（6）
－“家族と共に活動すること”を通して思春期を考える－

中村洋子（お茶の水女大）

目的：日常生活の中において、思春期の子供が“家族と共に活動すること”に着目し、思春期の子供の自己形成の過程での 希薄になりがちな家族関係を 改めて探る。さらに 思春期の親子関係において、かかわりの変化を通して“家族と共に活動すること”の意味を考究する。

方法：思春期の子供達への インタビュー・ 質問紙（T高校 1･2年生）により日常生活での“家族と共に活動すること”を どう考えるかを分類し究明する。また“家族と共に活動すること”の心理劇 （1996~1997年 お茶大 心理劇研究会,女性と家族をめぐる人間関係を考える会 他 で施行）で、3つの関係状況を仮説的に設定し、1.親密な関係を通して得られるもの 2.役割を担いながら 分担し 活動して得られるもの 3.へだたりがある関係を、通して得られるもの を 関係状況及び役割行為を通してとらえ、分析する。結果を分析・考察するにあたっては、参加観察法・フィールドワーク，文献法をも 組み合わせて 参考にする。

結果及び考察：思春期の子供を持つ家族が“共に活動をすること”を通して、親密な関係を求めて育つことや、対等で助け合うような 相互の関係の中で 育つこと，ある距離間を持つ関係で、育つことがあり、共に活動する状況の バランスを探究することが、思春期の自己形成の過程に 意味あるものと考える。